令和5年度

授業進度計画

(シラバス)

2年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看 護 学 科

目　　次

教育課程表 …… 1
カリキュラム構造図 …… 3

2年次

看護物理学 …… 4
コンピュータ情報処理演習 …… 5
コミュニケーショントレーニングⅡ …… 6
人体の構造学Ⅲ(演習) …… 7
臨床栄養学 …… 8
疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液) …… 9
疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神) …… 10
疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌・放射線) …… 11
疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期) …… 12
リハビリテーション論 …… 13
公衆衛生学 …… 14
社会福祉・社会保障論 …… 15
基礎看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント) …… 16
臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療) …… 17
臨床援助技術論Ⅳ(看護過程) …… 18
臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実際) …… 19
看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレクション) …… 20
地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助) …… 21
成人看護方法論Ⅰ(呼吸・循環) …… 22
成人看護方法論Ⅱ(血液・アレルギー) …… 23
成人看護方法論Ⅲ(脳・代謝) …… 24
成人看護方法論Ⅳ(消化器・生殖・胃がんOP看護過程:周手術期含む) …… 25
看護演習Ⅳ(成老Ⅰ:技術・リフレクション) …… 26
老年看護方法論Ⅰ(運動・腎) …… 27
小児看護方法論Ⅰ(発達段階別) …… 28
小児看護方法論Ⅱ(症状別看護) …… 29
母性看護学概論 …… 30
母性看護方法論Ⅰ(妊娠・分娩・新生児) …… 31
精神看護学概論 …… 32
救急蘇生法Ⅰ(日赤救急法含む) …… 33

臨地実習

基礎看護学Ⅱ実習(日常生活援助) …… 34
成人・老年看護学Ⅰ実習(看護過程展開) …… 35

学則第8条 21条関係

別表１－１ 看護学科/４年制　　（令和4年度入学生）　　(1/2)

授業科目			単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容		科目名						
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
		小計	7	155	110	45		
	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
		人間理解の基礎	1	15			15	
		小計	9	180	105	30	30	15
	計		16	335	215	75	30	15
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ（演習）	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
		小計	7	175	140	35		
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ（呼吸・循環・消化器）	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ（内分泌・免疫・血液）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ（脳神経・運動・精神）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ（小児・腎・泌）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ（生殖器・周産期）	1	15		15		
		リハビリテーション論	1	15		15		
		小計	10	250	100	120	30	
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				30
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
		小計	6	140		50	60	30
	計		23	565	240	205	90	30
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ（概念・歴史）	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ（看護倫理・理論）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・感染）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ（ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ・看護記録）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ（環境・活動）	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ（清潔）	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ（食事・排泄）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ（与薬）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ（検査・治療）	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ（経過別・症状別）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ（看護過程）	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅴ（看護過程の実際）	1	15		15		
		看護演習Ⅰ（基礎Ⅰ：技術・リフレ）	1	15	15			
		看護演習Ⅱ（基礎Ⅱ：技術・リフレ）	1	15		15		
		小計	15	365	255	110		
	地域・在宅看護論	地域看護学	1	15			15	
		在宅看護概論	1	15	15			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ（家族援助）	1	30		30		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ（技術）	1	30			30	
		地域・在宅看護方法論Ⅲ（展開・演習）	1	30				30
		看護演習Ⅲ（在宅：技術・リフレ）	1	15				15
		小計	6	135	15	30	45	45

別表１－１　看護学科/４年制　　（令和4年度入学生）　　(2/2)

授業科目			単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容		科目名						
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護方法論 Ⅰ（呼吸・循環）	1	30		30		
		成人看護方法論 Ⅱ（アレルギー・血液）	1	20		20		
		成人看護方法論 Ⅲ（脳・代謝）	1	30		30		
		成人看護方法論 Ⅳ（消化器・生殖・胃がんのの看護過程）	1	30		30		
		看護演習Ⅳ（成老Ⅰ：技術・リフレ）	1	15		15		
		看護演習Ⅴ（成老Ⅱ・Ⅲ：技術・リフレ）	1	15			15	
		小計	7	170	30	125	15	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護方法論 Ⅰ（運動・腎）	1	15		15		
		老年看護方法論 Ⅱ（生活支援・意思決定支援・認知症・がん・緩病）	1	30			30	
		老年看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	20			20	
		看護演習Ⅵ（成老Ⅳ：技術・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	110	30	15	65	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		小児看護方法論 Ⅰ（発達段階別）	1	30		30		
		小児看護方法論 Ⅱ（症状別看護）	1	30		30		
		小児看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	15			15	
		看護演習Ⅶ（小児：技術・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	120	30	60	30	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
		母性看護方法論 Ⅰ（妊娠・分娩・新生児）	1	30		30		
		母性看護方法論 Ⅱ（産褥・育児）	1	30			30	
		母性看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	15			15	
		看護演習Ⅷ（母性：技術・沐浴演習・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	120		60	60	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
		精神看護方法論Ⅰ（症状別看護）	1	30			30	
		精神看護方法論Ⅱ（生活）	1	30				30
		精神看護方法論Ⅲ（看護過程）	1	15				15
		看護演習Ⅸ（精神：技術・リフレ）	1	15				15
		小計	5	120		30	30	60
	看護の統合と実践	看護管理論Ⅰ（医療安全）	1	15				15
		看護管理論Ⅱ（看護マネジメント）	1	15				15
		災害看護論（トリアージ含む）	1	30				30
		国際看護論	1	15				15
		看護研究Ⅰ（基礎）	1	30			30	
		看護研究Ⅱ（実践・研究発表含む）	1	30				30
		看護の展望（学会参加・看護観発表会含む）	1	30				30
		救急蘇生法Ⅰ（日赤救急法含む）	1	15		15		
		救急蘇生法Ⅱ（BLS研修含む）	1	30				30
		看護演習Ⅹ（生活：技術・リフレ）	1	20				20
		看護演習Ⅺ（統合：技術・リフレ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅠ（総合看護過程Ⅰ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅡ（総合看護過程Ⅱ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅢ（卒業前演習）	1	20				20
		小計	14	340		15	30	295
	臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習（対象理解）	1	45	45			
		基礎看護学Ⅱ実習（日常生活援助）	2	90		90		
		地域看護学実習（居場所・産業・行政）	1	45			45	
		地域・在宅看護論実習	2	90				90
		成人・老年看護学Ⅰ実習（看護過程展開）	2	90		90		
		成人・老年看護学Ⅱ実習（急性期・回復期）	2	90			90	
		成人・老年看護学Ⅲ実習（慢性期・終末期）	2	90			90	
		成人・老年看護学Ⅳ実習（リハビリテーション・継続看護等）	2	90			90	
		小児看護学実習	2	60			60	
		母性看護学実習	2	60			60	
		精神看護学実習	2	90				90
		生活援助実習（施設等）	2	90				90
		看護の統合と実践実習	2	90				90
		臨地実習　計	24	1020	45	180	435	360
総合計			125	3400	860	905	830	805

カリキュラム構造図

教　育　理　念

教　育　目　標

専門分野	看護の統合と実践		看護管理論Ⅰ・Ⅱ、災害看護論、国際看護論、看護研究Ⅰ・Ⅱ 看護の展望、救急蘇生法Ⅰ・Ⅱ、看護演習Ⅹ・Ⅺ 総合看護セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ
			臨地実習：生活援助実習、看護の統合と実践実習
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護方法論Ⅰ 精神看護方法論Ⅱ 精神看護学実習 看護演習Ⅸ	
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護方法論Ⅰ 小児看護方法論Ⅱ 小児看護方法論Ⅲ 小児看護学実習 看護演習Ⅶ	
	成人看護学	成人看護学概論 成人看護方法論Ⅰ 成人看護方法論Ⅱ 成人看護方法論Ⅲ 成人看護方法論Ⅳ 成人老年看護学実習 看護演習Ⅳ・Ⅴ	
	老年看護学	老年看護学概論 老年看護方法論Ⅰ 老年看護方法論Ⅱ 老年看護方法論Ⅲ 成人老年看護学実習 看護演習Ⅵ	
	母性看護学	母性看護学概論 母性看護方法論Ⅰ 母性看護方法論Ⅱ 母性看護方法論Ⅲ 母性看護学実習 看護演習Ⅷ	
	地域・在宅看護論	臨地実習：地域・在宅看護論実習	在宅療養支援、地域包括支援
		臨地実習：地域看護学実習	地域(コミュニティ)・行政・学校保健・産業保健、地域での看護の実際
		看護演習Ⅲ	看護技術演習、看護リフレクション
		地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	家族援助、在宅療養に必要な技術、看護展開
		在宅看護概論	概念、機能と役割、対象、活動の場、活動方法
		地域看護学	地域(コミュニティ)・生活の理解
	基礎看護学	臨地実習：基礎看護学Ⅰ実習	対象理解
		臨地実習：基礎看護学Ⅱ実習	日常生活援助
		看護演習Ⅰ・Ⅱ	看護技術演習、看護リフレクション
		臨床援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	看護技術(与薬、検査・治療、経過別・症状別、看護過程)
		基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術(環境、活動、清潔、食事、排泄)
		基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術(コミュニケーション、バイタルサイン、感染、記録、フィジカルアセスメント)
		基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ	概念、歴史、看護倫理、看護理論
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度		看護と法律、公衆衛生学、社会福祉・社会保障論、保健指導論 保健統計
	疾病の成り立ちと回復の促進		感染防御学、病理学、臨床薬理学 疾病治療学Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論
	人体の構造と機能		人体の構造学Ⅰ～Ⅲ、人体の機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、臨床栄養学
基礎分野	人間と生活・社会の理解		倫理学Ⅰ・Ⅱ、法学概論、家族社会学、英語コミュニケーション コミュニケーショントレーニングⅠ～Ⅲ、人間理解の基礎
	科学的思考の基盤		教育心理学、教育学(教育原理・教育方法論)、論理的思考の基礎、 看護物理学、情報モラル、情報科学概論、コンピュータ情報処理演習

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護物理学	看護学科/2年次	令和5年度/後期	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（15時間）	必須	松本正義

[授業の目的・ねらい]
物理とは「物の道理」であり、物理学とは自然現象を支配する法則を明らかにし体系化したものである。脳の構造や遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。私たちが身を置いている医療・看護・介護の場面は物理であふれていると言っても過言ではない。そこで、この科目では、人の健康レベルを判断する際の根拠となる物理現象に関する基礎的原理・原則を学んでもらいたい。

[科目終了時の達成課題(行動目標)]
1.剛体の力学について学び、力のモーメント、てこの原理、ボディメカニクスを理解する。
2.圧力とは何かを学び、ヒトの内部で起きる圧変動が与える影響を理解する。
3.音、光、熱に関する基礎知識を学び、医療・看護用具に使われている物理原則を理解する。

【実務経験】臨床工学士の資格を有している
臨床工学士の実践を教材とし、学生がイメージしやすいよう授業を展開する
授業内容の復習ならびに次回の授業内容を予習し授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	重いものを持つためにはどうしたらよいか	力のモーメント てこの原理の人体中での応用 筋肉の張力と関節にはたらく力 腰にかかる力	力のモーメント(トルク) 支点・力点・作用点、てこの原理 僧帽筋・腓腹筋・上腕二頭筋の各張力 第5腰椎及び脊柱起立筋に働く張力
2	看護ボディメカニクスの物理	ベッド上の患者の上体を起こす方法 小さな力でも大きな効果 看護ボディメカニクスの物理的重点事項	支持面(基底面)、慣性の法則 ボディメカニクス 運動の法則
3	身近な圧力	圧力とは何か 気圧が変わったら人間はどうなるか 入浴とベッドの圧力効果	圧迫応力、引張り応力、ずれ応力 圧力(kg重/cm^2、mmHg、cmH_2O、Pa) フックの法則、パスカルの原理
4	呼吸器と吸引の物理	呼吸運動のメカニズム 吸引(胸腔ドレナージ)の原理 胃洗浄・真空採血管	ボイルの法則、陽圧と陰圧と平圧 チェスト・ドレーン・バッグの原理 ベルヌーイの定理、サイフォンの原理
5	点滴静脈内注射の物理	点滴静脈内注射のセッティングの違い 流量の調節 輸液バッグの高さ	ポンピング・プライミング、コアリング ポアズイユの法則、点滴所要時間 ブラウン運動(ランダムウォーク)
6	循環器の物理	ポンプとしての心臓 血液循環と血圧 血圧測定のメカニズム	心臓の刺激電動系のしくみ 平均血圧、脈圧、オームの法則、粘性 コロトコフ、オシロメトリック法、血圧と重力
7	感覚器の物理	感覚の大きさ 聴覚の感受性、聴覚の大きさ、音の高さ 感覚は変化に敏感で時間とともに弱まる 視覚の機能 視覚の感受性	閾値、ウエーバー・フェヒナーの法則 音の大きさ(dB)、音の高さ(Hz) 連続音、断続音(AM・FM変化)、ドップラー効果、暗・明順応、杆体・錐体細胞、プルキンエ現象
8	体温制御の物理	身体各部の温度と熱流モデル 体温調節のための機能 体温異常のメカニズム	代謝率、熱伝達率 不感蒸散、シュテファン・ボルツマンの法則 発熱、うつ熱、悪寒、青ざめ、シバリング
	試験	上記終了後、期末試験	

[参考・引用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
1)佐藤和良:看護学生のための物理学(第6版),医学書院. 2)基礎分野物理学系統看護学講座,医学書院)3)ベッドサイドを科学する看護に生かす物理学,Gakken	科目終了時の最終試験の評価

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
コンピュータ情報処理演習	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	田井　麻友美（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］
コンピュータによる情報処理の実技を学び、看護に活用できる技術を身につける。
ワープロソフトを用いてレポートや研究論文が作成できる。
表計算ソフトを用いて表の集計やグラフによる視覚的表現、数量データ・計数データを分析・推測・検定する。
検索や電子メールなどインターネット技術を活用する。
プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションを行う技能を身につける。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. ワープロソフト（Word）を使って、業務に必要な基本的な資料作成ができる。
2. インターネットや電子カルテシステムを活用して必要な情報を取得するために必要な技術を習得する。
3. 統計ソフト（Excel）の基本的な操作ができ、基本統計量を算出できる。
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を中心に、使用方法ををマスターし効果的なプレゼンテーションができる。

【実務経験】田井麻友美：PCインストラクターとして豊富な経験（学校での教授含む）を有し、情報処理技能に精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	パソコンを用いた演習（OS）	1）Windows Vistaの基本操作	・Windows Vistaの基本操作 パソコン設備の利用の仕方
2	パソコンを用いた演習（ワープロ）	1）Wordの基本操作 2）文字の入力	・Wordの基本操作
3	〃	3）文書の作成	・文章、グラフ・表による表現
4	〃	4）レポートの作成方法	・レポート作成に利用
5	パソコンを用いた演習（エクセル）	1）Excelの基本操作	・Excelの基本操作 ・表の作成と表計算機能の活用
6	〃	2）数式・関数の入力	・関数を利用した効果的な表計算の活用
7	〃	3）グラフ表現	・効果的なグラフの作成
8	〃	4）統計・解析	・量的データ・質的データの相違、集計方法の実際
9	パソコンを用いた演習（インターネット）	1）インターネットを使った情報検索	・YAHOO・Googleで情報の検索 ・専門の文献検索・メールの活用
10	パソコンを用いた演習（ワープロ）	1）PowerPointの概要と基本操作 2）PowerPointの応用操作	・PowerPointの基本操作
11	パソコンを用いた演習（看護研究）	1）看護研究（テーマ選定）	・「100の指標からみた香川（医療・福祉）」より研究テーマを選定する
12	〃	2）看護研究（計画書の制作） 3）看護研究（情報収集・分析）	・テーマに基づいて調査データを分析し、仮説を立てる
13	〃	4）看護研究（パワーポイントの制作①）	・調査データの図・表の作成
14	〃	4）看護研究（パワーポイントの制作②）	・全体構成および発表原稿の制作
15	プレゼンテーション 試験	5）プレゼンテーション 上記終了後、期末試験	・設定したテーマに基づき発表する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・よくわかるMicrosoft Word2010＆Microsoft Excel1210＆Microsoft Powor Po2520 ・必要資料はプリントで配布	1）科目終了時の発表評価　：60％ 2）提出物評価　：30％ 3）出席　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 /	授 業 形 態
コミュニケーション トレーニングⅡ	看護学科／２年次	令和5年度	(講義)・(演習)・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単位（30 時間）	必須	高橋 加代

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]
コミュニケーションは看護職に求められ、相手を理解し相手との関係を築くプロセスである。コミュニケーションを学び、成人・老年看護学実習時に自己評価・他者評価（指導者・教員）により自己のコミュニケーション能力を自己分析する。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]
1）現時点での学生個々のコミュニケーション・スタイルを診断し気付きを得ることができる。
2）考え方を学ぶだけでなくディスカッションやロールプレイでスキルを身につけることができる。
3）学習した考え方やスキルを使って、臨地実習での問題を解決するシミュレーションを行い、自己理解と自信を深めることができる。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	コミュニケーションの自己評価	1）コミュニケーションの自己評価シートの記入 2）BCSA事前の受診と活用	コミュニケーションを学ぶ目的 自己のスキルの不足に気付く
2	臨地実習におけるコミュニケーションの環境	1）臨地実習におけるコミュニケーション コミュニケーションの必要性	コミュニケーションに必要な環境
3	指導者とのコミュニケーション	1）信頼情報の発信	
4	〃	2）共感情報の発信	
5	〃	3）ケーススタディ1	
6	〃	4）共感情報の受信	
7	〃	5）理論情報の発信	
8	〃	6）ケーススタディ2	
9	患者さんとのコミュニケーション	1）信頼情報の発信	
10	〃	2）共感情報の発信	
11	〃	3）ケーススタディ1	
12	〃	4）共感情報の受信	
13	〃	5）理論情報の発信	
14	〃	6）ケーススタディ2	
15	臨地実習後の振り返り	1）臨地実習でのコミュニケーション評価（360度評価）	自己評価、看護師評価、教員評価を得て、次回の領域実習に向けて改善ポイントを3点考える（課題の評価対象）
	試験	14回目終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発分科会編：専門学校生に求められるコミュニケーション力育成テキスト ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ	1）科目終了時の最終試験の評価（筆記試験）：100％

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
人体の構造学Ⅲ	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・(実習)
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	中西　文香 太田　健一　(非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]
既習の人体の機能学・構造学の知識を解剖実習により統合し、人体への理解を深め科学的看護の基盤にすることをねらいとする。またご献体を通して人間の尊厳を学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]
1.人体の構造を系統的(脳・神経・感覚器・骨・運動器・呼吸器・循環器・消化器・腎泌尿器・生殖器)に目視し、主要な器官・臓器について解剖学用語を用いて説明できる。
2.理解した構造を人体として統合し、フィジカルアセスメントや看護ケア上の根拠として活用できる。
3.看護の対象となる人間の尊厳と医療人としての自覚を深め、ご献体に対して謙虚な態度をとることができる。

【実務経験】太田健一：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
解剖見学実習をとおして学生が人体の構造について知識習得できるよう支援。

【準備学習】
授業の復習、解剖見学事前課題にて学習を深める。

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	献体について 授業のOR	1)解剖学とは 2)献体について	講義と調べ学習
2	調べ学習 調べ学習 調べ学習	1)調べ学習 系統別に分けて調べ学習 発表資料作成	調べ学習
	学生講義 学生講義 学生講義	1)発表、意見交換 ・循環器　・消化器　・呼吸器 ・感覚器　・腎泌尿器　・骨運動器	調べ学習、および学生講義は、見学実習に向けての課題学習として、学内にて取り組む。
	学生講義	・脳外科　・血液免疫　・代謝	科目試験あり
3	解剖実習についての心構え	1)人間の尊厳と医療人としての自覚	
4	解剖実習について オリエンテーション (1年生との合同)	1)人間の尊厳と医療人としての自覚 2)手引きの説明とグループ学習 3)医の倫理の読み合わせと確認	解剖実習に向けて4月から解剖ファイルに追加学習する 解剖見学実習前に最終提出
5	解剖見学実習	1)循環器・呼吸器	
6	解剖見学実習	2)骨格と筋肉系	
7	解剖見学実習	3)脳の構造	5回目から8回目までの授業は
8	解剖見学実習	4)生殖器系の構造 5)消化器系の構造 6)腎・泌尿器系の構造	解剖見学実習で学ぶ 見学実習において午後からの実習は、1年生への指導を行う
	人体の構造のまとめ	1)人間の尊厳と医療人としての自覚 レポート作成し提出	解剖体について理解 ご献体に対する謙虚な態度

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・林正健二　編：ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版 ・竹尾恵子：看護技術プラクティス　改訂3版、学研	1)学習態度・授業参加状況(出席・遅刻を含む)　50% 解剖実習全日の出席が必要である 2)確認テスト　40% 3)課題レポート　10%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床栄養学	看護学科/ 2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位（ 20 時間)	必須	(非常勤)

[授業の目的・ねらい]
健康の保持増進を踏まえた食生活の基本を理解するともに、医療チームにおける看護師として必要な臨床栄養学のエビデンスから実践までの知識を身につける

[授業修了時の達成課題(行動目標)]
1. 基本であるバランスのとれた食生活について説明できる
2. 栄養素、適正栄養量など栄養学の基本について説明できる
3. 各疾患に応じた食事療法について説明できる
4. 医療チームにおける看護と臨床栄養学の関連を説明できる

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	臨床栄養学の基礎知識	1)栄養とは･･･栄養と栄養素、栄養素の分類 2)病院の食事について	・栄養と栄養素の種類と性質 ・病院給食の概要
	〃	1)栄養とは･･･栄養素の分類	・栄養素の役割と臨床的意義 ・身近な栄養表示を知る
2	臨床栄養学の基礎知識	1)栄養アセスメント 演習:BMI、皮下脂肪厚	・栄養アセスメントの判定方法と判定基準 BMI,TSF,AMC,AMA
	食品成分と食事摂取基準	1)食品成分とエネルギー	・食品の成分とエネルギー消費量
		1)食事摂取基準	・食品の分類 ・日本人の食事摂取基準2020の活用
3	日常生活と栄養	1)食文化 2)運動と栄養　3)栄養表示について	・日本型食生活の長所と課題 ・運動時の栄養の役割
4	日常生活と栄養	1)人生各期における健康生活と栄養 （乳幼児期、学童期、青年期）	・各年代の特徴と望ましい食生活
5	〃	1)人生各期における健康生活と栄養 （成人期、妊娠・授乳期、高齢期）	・各年代の特徴と望ましい食生活
6	療養生活と栄養	1治療による回復を促すための食事と栄養管理 2)栄養成分別のコントロール食 1)嚥下障害のある人のための食事 2)経口摂取できない患者のための栄養管理	・検査食、術後食、化学療法者食 ・成分別栄養管理 ・学会分類2013 ・経管栄養法・中心静脈栄養法
7	疾患別の食事療法	1)消化器系疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 胃潰瘍、潰瘍性大腸炎、肝硬変ほか
	〃	1)内分泌・代謝疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 糖尿病ほか
8	〃	1)循環器系疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 高血圧症ほか
	〃	1)腎疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 CKDほか
9	食事指導の実際	1)健康増進のための食事指導 2)食習慣改善のための食事指導	・食生活指針 ・望ましい支援の方法
10	まとめ		

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・關戸恵子　編:ナーシンググラフィカ　疾病のなりたち④ 「臨床栄養学」 MCメディカ出版 ・「新食品成分表」東京法令出版	1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
疾病治療学Ⅱ （内分泌・免疫・血液）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・　演習　・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（　30 時間）	必須	井垣俊郎／猪尾昌之／田岡輝久 （非常勤）実務経験有

［授業の目的・ねらい］
科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域（内分泌・免疫・アレルギー・血液・造血器疾患）にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］
1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。

【実務経験】井垣俊郎・猪尾昌之・田岡輝久：医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
内分泌疾患・免疫疾患・血液疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し教授する。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	内分泌・代謝系疾患	1)内分泌機能・内分泌器官　【担当：井垣】	・内分泌・代謝系疾患について具体的事例を通して学ぶ
2	〃	2)内分泌・代謝系疾患の症状 血糖異常　肥満　やせ	
3	〃	3)内分泌・代謝系疾患の診断・検査 血液検査　ホルモン定量　負荷試験	
4	〃	4)内分泌・代謝系疾患 糖尿病　クッシング症候群　甲状腺がん	
5	〃	5)内分泌・代謝系疾患の治療	★理解度確認テスト
6	免疫・アレルギー系疾患	1)免疫・アレルギー系の病態生理　【担当：猪尾】 喘息　アレルギー　免疫	・免疫・アレルギー疾患について具体的事例を通して学ぶ
7	〃	2)免疫・アレルギー系疾患の症状 痛み　発熱　皮疹　臓器症状	
8	〃	3)免疫・アレルギー系疾患の診断・検査	
9	〃	4)免疫・アレルギー系疾患 自己免疫疾患（SLE　関節リウマチ）　膠原病	
10	〃	5)免疫・アレルギー系疾患の治療	★理解度確認テスト
11	血液・造血器疾患	1)血液・造血器の病態生理　【担当：田岡】	・血液・造血器疾患について具体的事例を通して学ぶ
12	〃	2)血液・造血器疾患の症状	
13	〃	3)血液・造血器疾患の診断・検査	
14	〃	4)血液・造血器疾患 急性白血病　悪性貧血　悪性リンパ腫	
15	〃	5)血液・造血器疾患の治療 手術療法　骨髄移植　幹細胞移植	★理解度確認テスト
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・明石　惠子編：ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護②栄養代謝機能障害　メディカ出版
・林正健二　編：ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護③造血器障害/免疫機能障害　メディカ出版
・矢野久子他　編：ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑦　疾病と治療　メディカ出版
・中島恵美子他　編：ナーシング・グラフィカ成人看護学④　周術期看護　メディカ出版

［参考図書］
・林正健二　編：ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1)最終試験評価：100％

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
疾病治療学Ⅲ (脳神経・運動器・精神)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義) ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	岡部昭延 松下誠司 藤野宜久 (非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]
科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(脳神経・運動器・精神)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]
1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。
【実務経験】岡部昭延　松下誠司:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
藤野宜久:精神病院に長年勤務しており、精神看護に精通している。
脳疾患・運動器疾患・精神疾患に基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。
【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	脳神経疾患	1)保存的治療の適応 【担当:岡部】 ・脳脊髄循環障害	※過去の国家試験 ・脳血管系の循環障害
2	〃	・脳脊髄の感染症 ・脳・脊髄の変性疾患	・頭蓋内圧亢進症状に伴う疾患 ・神経変性、脱髄性の疾患
3	〃	・脳・脊髄の機能性疾患 2)外科的治療の適応	・認知症
4	〃	・脳脊髄循環障害 ・脳脊髄の感染性疾患	・頭部の外傷 ・二次的に意識障害・神経障害を起こす
5	〃	・脳の機能外科	疾患
6	〃	・脳・脊髄の腫瘍性疾患 ・外傷性疾患	★理解度確認テスト ・脳神経疾患の地域医療ネットワーク
7	運動器疾患	1)治療法の種類 【担当:松下】 保存的治療	※過去の国家試験 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患
8	〃	・薬物療法 ・牽引方法 ・注射療法 ・装具・義肢	
9	〃	手術療法 ・腱・末梢神経の手術 ・脊椎・脊髄の手術	運動機能障害による残存機能と リハビリテーション
10	〃	・骨・関節の手術 2)主な運動器疾患	
11	〃	・外傷・骨折・打撲・関節外傷 ・脊椎の疾患 ・神経の外傷、筋・腱含む ・腫瘍	活動や行動が制限されることにより発生する 疾患
12	〃	・先天性疾患、代謝性骨疾患 ・リウマチ性疾患、四肢の疾患	★理解度確認テスト
13	精神疾患	1)精神症状と精神疾患 【担当:藤野】 (1)精神疾患総論 (2)精神作用物質による精神障害	精神症状の理解
14	〃	(3)統合失調症 (4)気分障害 (5)神経症性障害 (6)心的外傷後ストレス障害(PTSD) (7)人格障害 (8)認知障害	主な精神疾患の病因・症状・診断・治療
15	〃	2)医学的検査と心理検査 3)精神科における治療の構造 4)嗜癖と依存	
	試験		

[使用テキスト]
・田村　綾子　編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護④　疾病と治療　メディカ出版
メディカ出版
・林正健二　編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護⑦　疾病と治療　メディカ出版
・中島恵美子他　編:ナーシング・グラフィカ
成人看護学④　周術期看護　メディカ出版
・林正健二　編:ナーシング・グラフィカ
人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版
・出口　禎子　編:ナーシンググラフィカ　精神看護学
①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と
看護の基本

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
1)最終試験評価:100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病治療学Ⅳ (小児・腎・泌尿器・放射線)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30 時間）	必須	磯部健一　小橋嵩平　林田有史　山村憲一郎 (非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]
科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(小児・腎泌尿器・放射線)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]
1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。

【実務経験】磯部健一、小橋嵩平、林田有史:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
山村憲一郎:大学病院等において豊富な経験を有し、教育に精通する。
小児疾患、腎泌尿器、放射線治療について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	先天異常と新生児	1)遺伝子・染色体の異常と形態異常 2)新生児の疾患　【担当:磯部】	＊主な疾患に関連させて皮膚・感覚器の疾患も学ぶ
2	消化器疾患	1)食道・胃・腸の疾患 2)胆道・肝・消化器関連疾患	・呼吸窮迫症候群 ・超低出生体重児(未熟児網膜症)
3	呼吸器疾患 循環器疾患	1)気道の疾患2)肺の疾患 1)小児の循環器疾患の特徴　2)先天性心疾患	・先天性食道閉鎖症・肥厚性幽門狭窄症 ・ヒルシュスプルング病
4	血液・腫瘍疾患	1)血液疾患　2)小児がん	・胆道閉鎖症・マイコプラズマ肺炎
5	アレルギー・内分泌・代謝疾患	1)アレルギー性疾患 2)内分泌・代謝疾患	・ファロー四徴症・白血病 ・神経芽細胞腫
6	神経・筋・腎尿路疾患 骨・関節疾患	1)痙攣、意識障害を主症状とする発作性疾患 2)外科的治療の対象になる小児神経疾患	・川崎病(目・皮膚の症状と後遺症) ・てんかん
7	〃	3)腎疾患	・二分脊椎
8	骨・関節疾患、感染症 精神領域の疾患	1)骨・関節疾患　2)細菌感染症・ウイルス感染症 3)小児の精神疾患	・ネフローゼ症候群 ・ペルテス病・自閉症など
9	腎・泌尿器疾患	1)腎疾患　【担当:小橋】 ・腎の先天性奇形	排泄機能障害
10	〃	・腎盂・尿管の先天性奇形、性分化異常 ・急性・慢性腎不全	・腎・尿路の炎症 ・腎・尿路の腫瘍
11	〃	・代謝性疾患に伴う腎障害　・腫瘍性疾患 2)泌尿器疾患　【担当林田】	・腎・尿路の通過障害 ・体液の調節障害
12	〃	・膀胱の疾患　・尿道の疾患 ・陰茎・陰嚢の疾患	
13	〃	・精巣・精巣上体・精索の疾患	★理解度確認テスト
14	放射線診療	1)放射線の医学利用　【担当:山村】 ・放射線治療とは:主な疾患の放射線治療	・放射線の医学利用 ・主な疾患の放射線治療
15	〃	・放射線治療の効果と副作用 2)がんと放射線診療 ・放射線検査:MRI検査、核医学、血管造影 ・放射線化学療法	・MRI検査、核医学、血管造影 ★理解度確認テスト
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]
・林正健二　編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護⑦　疾病と治療　メディカ出版
・中村綾美　編:ナーシンググラフィカ　小児看護学③
①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と小児の疾患と看護　メディカ出版

[参考図書]
・林正健二　編:ナーシング・グラフィカ
人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
1)最終試験評価:100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病治療学Ⅴ （生殖器・周産期）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・　演習　・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（　15 時間）	必須	川田　清嚢（非常勤）実務経験有

［授業の目的・ねらい］
科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

［科目修了時の達成課題（到達目標）］
1.妊娠・分娩・産褥各期の正常経過と異常の病理・要因について説明できる。
2.正常経過、異常経過の診断法、検査、治療法を看護実践との関連で説明できる。
3.女性生殖器疾患のメカニズム、病態、治療を説明できる。

【実務経験】川田清嚢：医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
周産期・婦人科疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用いて授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	リプロダクティブヘルス	1．リプロダクティブヘルスに関する概念 1）リプロダクティブヘルス/ライツ 2）セクシュアリティとジェンダー 3）ヒトの発生・性分化のメカニズム　4）性分化疾患 2．生殖に関する生理 1）生殖器　2）第二次性徴　3）性周期 4）妊娠のメカニズム	リプロダクティブヘルス セクシュアリティ　ジェンダー 性同一性、　性的指向
2	〃	3．生殖における健康問題 1）月経異常　2）性感染症　3）女性生殖器の腫瘍	
3	〃	4．不妊症 1）妊孕性と不妊　2）不妊の原因と治療 3）不妊治療 5．加齢とホルモンの変化 1）更年期女性の特徴　2）更年期女性の健康問題 3）老年期女性の特徴　4）老年期女性の健康問題	＜キーワード＞原発性不妊・続発性不妊・女性不妊・男性不妊・人工授精・体外受精・生殖補助医療の手技・不育症
4	妊娠期	1．1）妊娠の定義と妊婦の生理　2）妊娠のメカニズム 3）胎児の発育　4）妊娠時の母体の変化	＜キーワード＞・流産・早産・妊娠貧血・妊娠糖尿病・前置胎盤・常位置胎盤早期剥離・妊娠高血圧症候群・胎盤機能不全
5	妊娠期の異常	1．1）ハイリスク妊娠の定義 2）ハイリスク妊婦の管理に必要な検査 3）妊婦と胎児に見られる異常	
6	分娩期	1．1）分娩の定義と生理 2）娩出力，産道、胎児、胎児付属物の異常	
7	分娩期の異常	1．1）産道・娩出力・娩出力・臍帯の異常 2）分娩時裂傷　3）児頭骨盤不均衡（CPD） 4）胎児機能不全　5）異常出血　6）産科処置・手術	＜キーワード＞遷延分娩・骨盤位分娩・胎児付属物異常・産科手術・胎児仮死
8	産褥期 産褥期の異常	1．1）産褥の定義と生理 2．1）産褥期の出血　2）産褥感染症 3）子宮復古不全　4）産褥精神障害	＜キーワード＞子宮復古不全・外陰・膣内の血腫・産褥熱・尿路感染・乳腺炎・産褥血栓性静脈炎・産褥精神障害

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・林正健二　編：ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害メディカ出版 ・林正健二　編：ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版 ・中込さと子編：ナーシング・グラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版	1）最終試験評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
リハビリテーション論	看護学科/2年次	令和5年度	(講義) ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	廣永 大祐(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]
リハビリテーションの概念を理解し、対象が社会の一員として生き生きと生活するための関係職種や看護の役割を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]
1. リハビリテーションを展開していく基本的枠組みを述べることができる。
2. 障害を抱える人に共通する特徴的な課題とそれに対する援助方法を述べることができる。
3. 代表的な疾患について発症から維持期に至るまでの経過全体をとらえつつ、各段階におけるリハビリテーションのポイントについて述べることができる。

【実務経験】廣永大祐：作業療法士として5年以上の実務経験。
臨床での経験を交えながら、学生が基本的な知識習得を図れるよう授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	リハビリテーション概論	1)リハビリテーションの定義と理念 2)障害者の実態と障害分類	
2	〃	1)リハビリテーションにかかわる職種 2)リハビリテーションのチーム医療 3)障害に対する態度	
3	〃	1)セルフケアへの援助 2)コミュニケーションと家族援助	
4	運動器の障害とリハビリテーション	1)総論 2)骨折 3)関節リウマチ	MMT 関節可動域訓練
5	演習	1)関節可動域のはかりかた 2)可動域訓練と等尺性運動	演習(MMT、関節可動域、等尺性運動)
6	中枢神経系の障害とリハビリテーション	1)脳血管障害 2)パーキンソン症候群 3)脊髄損傷	自助具の活用
7	呼吸・循環器系の障害リハビリテーション	1)慢性閉塞性肺疾患	体位ドレナージ 呼吸理学療法
8	〃	1)虚血性心疾患	身体活動能力指数(SAS)
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・奥宮暁子：成人看護学⑥.リハビリテーション看護.メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験)：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位（20時間）	必須	浅川　富美雪(非常勤)先生

［授業の目的・ねらい］
公衆衛生活動は、個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、社会・経済の変化や、地域社会の文化風俗・習慣とも密接に関連した、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的な面からのアプローチを必要とし、政策、計画、運動、管理、研究、評価、予測、協力、調整といった具体的活動につながっている。
生活者の健康の保持・増進、及び健康で活力ある社会の実現を図るために、自然科学と社会科学の両面から立体的にアプローチする公衆衛生学的方法を学ぶ。

［科目修了時の達成課題(行動目標)］
1.健康社会実現にむけた総合的な保健医療福祉および環境のあり方について理解できる。
2.生活者の様々な健康問題を公衆衛生学的な視点で考えることができる。

【実務経験】浅川富美雪：大学にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。
事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	公衆衛生の概念	1.公衆衛生の概念と歴史 2.健康とは	公衆衛生の定義，国の社会的責務 予防の概念，PHC，ヘルスプロモーション
	健康と環境	1.集団の特性と集団を扱う医学	集団検診，記述疫学，分析疫学，臨床疫学
2	健康の指標	1.保健統計・健康指標	人口静・動態統計，死亡率・年齢調整死亡率 出生率・合計特殊出生率，平均寿命
3	感染症	1.感染症とその予防	感染症の成立要因，感染症法・医師の届出 検疫法，予防接種法
4	地域保健活動	1.地域保健活動 2.医療サービスの供給体制	ヘルスサービスのシステム・保健所・保健センター 医療法・医療施設・保健医療計画，医療費
	危機管理	1.危機管理・災害医療	医療安全支援センター，災害医療センター
5	母子保健	1.統計からみた我が国の母子保健 2.健やか親子21・子育てと家族	母子保健法，母子保健サービス 母子保健の新たな課題，児童福祉法 リプロダクティブ・ヘルス/ライツとジェンダー
	学校保健	1.学校保健制度	学校保健安全法，学校保健活動
6	生活習慣病	1.生活習慣病の概念と予防 2.健康づくり施策 3.老人保健福祉	一次予防の推進，がんの動向と対策 健康日本21と健康増進法 高齢者医療確保法，介護保険法
7	産業保健	1.健康に影響を与える労働環境 2.労働衛生管理(3管理)	労働基準法，労働災害，職業病，母性保護 労働安全衛生法による健康診断・THP
8・9	環境保健	1.生活環境の保全・典型7公害 2.廃棄物の処理	環境基本法，環境基準，地球環境問題 循環型社会と3R，感染性廃棄物
	食品保健と栄養	1.食品の安全・食品衛生管理・国民の栄養	食品安全基本法，食品衛生法，食中毒
10	難病対策 精神保健福祉 これからの公衆衛生	1.難病対策要綱 2.入院医療中心から地域生活中心へ 1.社会の変貌と公衆衛生 2.社会経済の発展と公衆衛生 3.国際化社会における公衆衛生	難病法，難病患者地域支援対策推進事業 精神保健福祉法，ノーマライゼーション
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・わかりやすい公衆衛生学．ヌーヴェルヒロカワ ・国民衛生の動向	1)科目終了時最終試験評価：80% 2)日常学習点：20%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
社会福祉・社会保障論	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	辰巳　裕子(非常勤) 実務経験有

[授業の目的・ねらい]
憲法25条を中心とした社会福祉・社会保障の理念・法制度・体系等を学習し、社会福祉・社会保障の概要を把握する。社会福祉援助技術の視点・方法を理解し、生活支援のあり方を理解する。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]
1.社会福祉・社会保障制度の歴史的展開、各制度の概要が理解できるようになる。
2.社会福祉・社会保障を必要とする社会福祉援助技術のあり方、社会資源を活用した援助方法が理解できる。

【実務経験】辰巳裕子：短大にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。
事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	生活と福祉	1)なぜ福祉を学ぶのか 2)生活基盤ライフスタイル 3)人間の集団としての働き	・社会福祉の特質 ・保健・医療・福祉の連携の必要性
2	〃	演習	・コミュニケーションのとり方・記録のとり方
3	社会保障の概念・歴史・制度体制	1)社会保障概念の形成 2)日本の社会保障の歴史的発展 3)社会保障の定義と範囲・分類 4)社会保障の目的	・価値観の多様性を理解する・社会保障の歴史的展開・社会保障の目的と種類 ・ライフサイクルと社会保障との関係
4	〃	5)社会保障の方法と財政　演習	・事例問題(児童・母子及び寡婦・生活
5	わが国の社会保険制度	1)社会保険の役割と制度の分類 2)医療保険制度	・社会保険制度の意義と種類 ・社会保険各制度の目的
6	〃	3)老人保健制度と公費負担医療制度 4)保健医療制度・医療提供体制 5)国民医療費と医療制度改革の課題 6)介護保険制度・年金保険制度 7)労働保険制度	・給付内容等の概要理解
7	〃	演習	・事例問題(障害者・高齢者)
8	社会福祉の歴史と援助技術	1)慈善事業から福祉国家まで 2)わが国の社会福祉の歴史 3)社会福祉援助技術	・社会福祉の歴史 ・社会福祉援助技術(直接援助技術，間接援助技術，関連援助技術)
10	〃	演習	
11	社会福祉の諸制度と施策	1)生活保護と施策 2)児童福祉と施策 3)身体障害児の福祉施策	・生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神障害者福祉法・老人福祉法・児童虐待防止法・高齢者虐待防止法・配偶者からの暴力及び被害者の保護関する法律(DV防止法)
12	〃	4)障害者の福祉施策・知的障害者(児)の福祉施策 5)高齢者の福祉施策	
13	社会福祉行政のしくみ	1)社会福祉法 2)社会福祉及び介護福祉士法	・社会福祉実施体制・福祉専門職
14	社会保障・社会福祉改革の動向	1)少子高齢社会 2)社会福祉基礎構造改革	・地域福祉 ・少子高齢化と社会保障改革
15	まとめ		・福祉改革と社会福祉基礎構造改革
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・島田美喜編：ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障　メディカ出版	1)最終試験評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
基礎看護技術論Ⅲ （フィジカルアセスメント）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
10回	1単位（　20時間）	必須	榊原　智子（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
ヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、患者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から統合的にアセスメントをするための知識と基本的技術と身体的アセスメント（フィジカルアセスメント）をについて学び、フィジカルアセスメント技術の修得を図る。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］
1. 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる。
2. 対象者の身体情報をもとに、健康レベルや正常・異常の判断ができる。

【実務経験】榊原　智子：看護師として5年以の実務経験。
臨床での経験を教材化し、学生が基本的な知識・技術の習得を図れるよう授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	身体的側面のアセスメント 問診・視診・触診・打診・聴診の実践	身体的側面のアセスメント：アセスメントに臨む姿勢、フィジカルアセスメントの必要物品／問診・視診、触診・打診・聴診／バイタルサインの測定 問診・視診、触診・打診・聴診の実践【演習】 バイタルサインの測定【演習】	フィジカルアセスメントに必要な物品の名称 対象の応じた方法を考える 得られた情報から対象者の状態を判断できる
2 3	系統別のアセスメント	系統別のアセスメント①神経系のアセスメントの実践	神経系の名称、構造および機能 日常生活への影響
4 5	〃	系統別のアセスメント②心臓・血管系のアセスメントの実践	心タンポナーデ 浮腫 動脈硬化
6 7	〃	系統別のアセスメント③肺（呼吸器系）のアセスメントの実践	呼吸器系の構造と機能 気管支の分岐角
8 9	〃	系統別のアセスメント④筋・骨格のアセスメントの実践	筋・骨格系の解剖生理 関節の可動域
10	まとめ	事例を用いたアセスメント	身体構造についての理解 身体の構造と機能との緻密な関係性 身体の状態を把握する能力
		上記授業終了後単位認定試験	

［使用テキスト］
デジタルナーシング・グラフィカ2022，3巻・病態生理学，19巻・基礎看護技術Ⅰ，株式会社メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
最終試験評価：100%

授業参加状況・学習態度を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
臨床援助技術論Ⅱ （検査・治療）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（　30時間）	必須	程内　ゆみ子（実務経験有） 山下　美紀（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
検査・治療を受ける対象のニーズに応じた看護援助技術の基本の理解を目的とする。演習を取り入れ対象の安全・安楽を考慮した各看護技術の習得をねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］
1. 検査の内容を理解し、検査を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。
2. 治療・処置を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。

【実務経験】程内ゆみ子・山下美紀：看護師として5年以の実務経験。
臨床での経験を教材化し、学生が基本的な知識・技術の習得を図れるよう授業を行う。

【準備学習】
前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	検査に伴う看護技術	1）検査の種類と検査に伴う看護 【検査:程内】 2）検体検査	・検査場面における看護師の役割と介助のポイントがわかる
2		・血液検査 ・尿、便、喀痰検査	・各検査の目的・留意点
3		3）生体検査 ・X線検査	
4		・CT検査、MRI検査 4）生体モニタリング	
5			
6	治療・処置に伴う看護技術	1）酸素療法　【1)2):山下】 2）吸引	・酸素療法の目的、種類、方法・注意事項 ・吸引の目的、方法・留意点
7		演習1　酸素療法	
8		演習2　口腔・鼻腔内吸引	
9		3）創傷の観察　【3)～5):山下】 4）褥瘡の観察、褥瘡の予防	・皮膚の構造機能、創傷の治癒過程
10		5）包帯法・罨法	・包帯法の目的、種類、方法・注意事項
11		演習3　包帯法・三角巾/ 創傷処置（無菌操作）	・無菌操作にて創部の処置
12		演習4　冷罨法・温罨法	・罨法の目的、種類、方法・注意事項
13		6）一次的導尿・持続的導尿　【6):程内】	・一次的導尿・持続的導尿の目的、方法・留意事項
14		演習5　一時的導尿・持続的導尿	
15		演習6　一時的導尿・持続的導尿 上記授業終了後単位認定試験	

［使用テキスト］
・志自岐康子他　編：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学④　基礎看護技術　メディカ出版
・竹尾恵子：看護技術プラクティス　改訂3版、学研

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）最終試験評価：100%
2）授業参加状況（遅刻・早退を含む）

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
臨床援助技術論Ⅳ （看護過程）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）（演習）　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	吉田展子　他（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

本授業では看護過程の役割・意義および5つの構成要素について学び、看護の視点を明確にしていく。また、アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用い、紙上事例を展開することで看護過程の基本的な考え方を学ぶ。

看護は実践の科学であり、アートである。エビデンスに基づいた思考過程と看護介入について考えられるよう、臨床援助技術論Ⅴで紙上事例を用いて看護過程を展開し学ぶ。

紙上事例演習を行うことで、思考の視点や思考の順序性および法則性を学ぶことができることをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また、看護過程を用いることの意義を説明できる。
2. 看護過程の各段階について基本的な考え方を説明できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程展開の実際を学ぶことができる。

【実務経験】吉田展子：看護師として5年以上の実務経験。
学生が既習の知識を想起または調べ学習し、思考の技術の習得が図れるよう授業を行う。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業までの課題に取り組み授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	看護過程とは	1)看護過程の構成要素	・看護過程の5要素
2		2)構成要素の関係性	
		3)看護過程を用いることの利点	
3	看護過程展開の	1)看護過程と問題解決型思考（POS）	・問題解決型思考とは
4	基盤となる考え方	2)看護過程とクリティカルシンキング	・クリティカルシンキングとは
5		3)看護の視点と看護アセスメント	・アセスメントの枠組みと看護理論
6	ゴードンの機能的健康	1)アセスメント過程①：情報の整理・解釈・総合	・健康的機能パターンによる情報収集
7	パターンに基づく		・アセスメント過程
8	看護過程	2)アセスメント過程②：関連図をもちいた問題の統合	・因果思考（原因結果）
9		3)アセスメント過程②：情報の分析・統合・照合	・問題の検証
10		4)問題の明確化（看護診断と看護問題）	・看護診断と看護問題、看護診断の種類
11			・看護診断の記述（PRS方式）、問題の優先順位
12		5)看護計画（看護目標(成果)・計画立案）	・RUMBAの法則、目標と診断指標の関係
13		6)計画の実施・評価・修正	・計画と関連因子・危険因子の関係、O・T・Eプラン
			・5W1H、安全・安楽・自立の視点
			・看護計画の実施、評価、修正の要点
14	看護記録	1)看護記録	・看護記録の目的と意義、構成要素がわかる
15	まとめ	学習内容の確認	
	試験	上記終了後に科目終了試験	

［使用テキスト］

・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学①　看護学概論，メディカ出版
・松尾ミヨ子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学②　ヘルスアセスメント，メディカ出版
・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③　基礎看護技術，メディカ出版
・日本看護診断学会監修訳：NANDA-Ⅰ看護診断　定義と分類、医学書院
・江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断［第4版］ヌーヴェルヒロカワ

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)1～5の内容について講義終了後に試験（筆記試験）：40%
2)6以降の内容について講義終了後に試験（筆記試験）：60%
＊本科目に合格した学生は、成人看護学Ⅰ実習に参加できる
＊主体的に授業・演習に参加して下さい

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
臨床援助技術論Ⅴ (看護過程の実際)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義) (演習) 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	吉田展子　他(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

本授業では臨床援助技術論Ⅳで学んだ、看護過程の役割・意義および5つの構成要素についてを理解したうえで、看護の視点でアセスメントし、看護問題の抽出までの思考過程を追う。アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用い、紙上事例を展開することで看護過程の基本的な考え方を学ぶ。

紙上事例演習を行うことで、思考の視点や思考の順序性および法則性を学ぶことができることをねらいとする。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また、看護過程を用いることの意義を説明できる。
2. 看護過程の各段階について基本的な考え方を説明できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程展開の実際を学ぶことができる。

【実務経験】吉田展子：看護師として5年以上の実務経験。
学生が既習の知識を想起または調べ学習し、思考の技術の習得が図れるよう授業を行う。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業までの課題に取り組み授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1 〜 5	紙上事例を用いた 看護過程の実際	演習：個人ワークならびにグループワークにて 紙上事例を用いて看護過程を展開する	・紙上事例を用いてグループで討議することで 看護過程の実際を学ぶ
6 〜 7	グループ発表	グループ発表および意見交換	紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・ 看護計画立案について学びを共有すると ともに疑問を解決する
8	まとめ	学習内容の確認	
	試験	上記終了後に科目終了試験	

[使用テキスト]

・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学① 看護学概論，メディカ出版

・松尾ミヨ子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学② ヘルスアセスメント，メディカ出版

・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③ 基礎看護技術，メディカ出版

・日本看護診断学会監修訳：NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類、医学書院

・江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断[第4版]ヌーヴェルヒロカワ

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)内容1)〜5)については科目終了時の最終試験の評価：100%

2)課題レポートの提出、出席状況を考慮する

＊主体的に授業・演習に参加して下さい

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
看護演習Ⅱ （基礎Ⅱ：技術・リフレクション）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（15 時間）	必須	吉田　展子(実務経験有) 南原　由理子(実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

リフレクション(Refrection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。

ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］

1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。
2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。
3. 自己の看護観を言語化できる。

【実務経験】吉田展子・南原由理子：看護師として5年以上の実務経験
学生の臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】

リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的について再学習する。また成人Ⅰ実習後のリフレクションについては、必要に応じて中範囲理論や先行研究を活用して意味づけできるよう学習する。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	基礎看護学領域技術演習オリエンテーション 基礎看護学領域技術演習オリエンテーション	1)科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示 2)模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	
2	基礎看護学領域技術演習	・食事・排泄・清潔・移動 3)援助計画の立案	・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する
3	〃	目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
4	〃	4)計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画	・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。
5	授業ガイダンス	本科目のねらい、学習方法の説明	・グループ内でディスカッションして学び共有する
6		1)深めたい内容の明確化	・日常生活援助を通して自己の学びを振り返る
7	基礎看護学実習Ⅱ振り返り演習	2)演習　グループワーク・個人ワーク	
8	〃	3)基礎看護学実習Ⅱ振り返り発表会 「日常生活援助について」	
	〃	〃	

［使用テキスト］

・志自岐康子他　編：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学④　基礎看護技術　メディカ出版
・藤野彰子：看護技術ベーシックス,医学芸術社
・松尾ミヨ子他　編：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学②　ヘルスアセスメント　メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)

1)基礎看護学Ⅱ実習前技術テスト評価50%、技術テストに合格した者が実習に参加できる
2)基礎看護学Ⅱ実習の振り返り発表会における取組、発表の評価50%
3)技術テストと基礎看護学Ⅱ実習リフレクション評価
との合算にて100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
地域・在宅看護方法論Ⅰ（家族援助）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	佐藤　洋子

［授業の目的・ねらい］

在宅療養者のみでなく療養者と家族を1つの単位として捉えることの意義、家族の捉え方、家族看護に関する理論を学ぶ。在宅療養者・家族が自らの健康を主体的に解決していくために必要とされる家族看護の基本的な考え方と援助方法を理解し、療養者のみでなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1. 家族看護の概念及び、家族看護における看護者の役割を説明できる。
2. 家族看護に活用できる諸理論について説明できる。
3. 地域における家族看護上の留意点が説明できる。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	家族看護の概念	1. 家族の理解 2. 地域看護の対象としての家族 3. 家族の機能①と②	・家族の定義・機能 ・現在のわが国の家族の特徴 ・看護師国家試験
2	QOL	1.ユーチューバー「にゅーいん」	・QOL ・家族関係
3	暮らしの場	1. 暮らしの場で看護をするための心構え 2. セルフケアを支える対話・コミュニケーション	・ラポールの形成 ・本人・家族の力量と主体を引き出す
4	家族支援	1. 家族のアセスメントのポイント 2. 家族の支援	・家族のセルフケア機能について ・自立への過程と援助方法
5〜10	家族看護のための諸理論 〃	1. 家族発達理論 2. 家族システム理論 3. 家族ストレス対処理論	・家族のライフサイクルと家族発達理論 ・エコマップとジェノグラム ・ジェットコースターモデル、ABCXモデル 二重ABCXモデル
11〜13	家族看護の実際と看護職の役割	事例を用いて家族支援のあり方を考える	・個々の家庭に応じた技術の創造 ・評価の視点、方法、時期の理解
14	家族介護者の健康	1.介護負担 2.家族介護者への支援	・様々な介護負担の要因 ・社会資源の活用とレスパイトケア
15	まとめ	上記学習内容の確認等	
	試験	上記終了科目終了試験	

［使用テキスト］

・櫻井尚子他：ナーシング・グラフィカ
在宅看護論　地域療養を支えるケア，メディカ出版

［参考図書］

・鈴木和子他編：家族看護学ー理論と実践、日本看護協会出版会
・木下由美子：Essentials　在宅看護学.医歯薬出版

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)科目終了時の最終試験の評価：100％
2)授業参加状況（出席状況を含む）を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
成人看護方法論Ⅰ (呼吸・循環)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間)	必須	朝比奈まこと(非常勤) 中西文香/実務経験有

[授業の目的・ねらい]

成人期にある対象の身体で起きている現象を理解し、呼吸機能障害、循環機能障害の患者の看護援助の基本理解を目的とする。特に急性期の看護援助の考え方や方法、成人とその家族のQOLを高める看護のあり方を学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象とその家族を総合的に理解し説明できる。
2.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象の特性と問題、援助方法を説明できる。
3.保健医療福祉の総合的な視点で健康レベルに応じた援助方法を説明できる。

【実務経験】朝比奈まこと:看護師として5年以上の実務経験。
中西文香:豊富な臨床経験でのエピソードを活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	循環器系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術　【担当:朝比奈】 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・生体維持機能障害 ・救命救急虚血性心疾患
2	〃	2)主要症状に対する看護	・胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難 ・チアノーゼ・失神
3	〃	3)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護	・心電図・心臓カテーテル検査
4	〃	4)疾患をもつ患者の看護 ①急性期の患者の看護	・虚血性心疾患・心不全 ・ペースメーカー・動脈瘤・
5	〃	② 回復期の患者の看護	周手術期
6	〃	③慢性期・終末期の患者の看護	・リハビリテーション ・社会資源の活用
7	呼吸機能に障害のある患者の看護	1)解剖の復習　呼吸器症状と看護　【担当:中西】	・呼吸器症状と看護
8	〃	2)呼吸器科で行われる検査と看護	・検査と介助 ・呼吸不全
9	〃	3)呼吸不全患者の病態と看護	・肺水腫 ・無気肺
10	〃	4)酸素化障害患者の病態と看護	・COPD ・肺血栓塞栓症
11	〃	5)換気障害患者の病態と看護	・肺炎 ・結核
12	〃	6)肺循環障害患者の病態と看護	・肺癌 ・気管支喘息
13	〃	7)呼吸器感染症患者の病態と看護	
14	〃	8)肺がん患者の病態と看護	
15	〃	9)気管支喘息患者の病態と看護	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・讃井 將満他 編:ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護①呼吸器 メディカ出版 ・野原 隆司他 編:ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護②循環器 メディカ出版	1)最終試験評価:100% 授業態度、提出物、出欠席を含む

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年　度	授　業　形　態
成人看護方法論Ⅱ （アレルギー・血液）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・演習・実習
授　業　の　回　数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授　業　担　当　者
10回	1単位（20 時間）	必須	橋本　照美（非常勤） 実務経験有

［授　業　の　目　的　・　ね　ら　い］

近年医療の発展や薬物の開発により疾患を持つ人々とその家族を対象とした健康支援は病院内だけではなく外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患を持つ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める看護のあり方について学ぶ。

［科　目　修　了　時　の　達　成　課　題（行　動　目　標）］

1. 対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2. 疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論を説明することができる。
3. 対象とその家族が病気や障害と共に生きていくために効果的な援助方法を説明できる。

【実務経験】橋本照美：看護師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授　業　の　内　容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	アレルギー、膠原病、感染症のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴	
	〃	2)主要症状に対する看護	
2	〃	3)疾患を持つ患者の看護	
3		①急性期の患者の看護	・多様なアレルギー症状
	〃	②回復期の患者の看護	・悪化予防への指導 ・日常生活の指導
4	〃	③慢性期の患者の看護	・ストレスや生活環境因子
		④終末期の患者の看護	★理解度確認小テスト
5	血液・造血器系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴	・易感染状態・・・感染の予防と早期対処
6	〃	2)主要症状に対する看護	
7	〃	3)疾患を持つ患者の看護	
		①急性期の患者の看護	・ボデーイメージの変化
8	〃	②回復期の患者の看護	・全身の苦痛の緩和
9	〃	③慢性期の患者の看護	・患者と家族に対する心理的支援
10	〃	④終末期の患者の看護	・輸血療法 ・化学療法時の看護・・苦痛や副作用の予防 ★理解度確認小テスト
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・吉田澄恵他　編：ナーシング・グラフィカ　成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版 ・中島恵美子他　編：ナーシング・グラフィカ 成人看護学④　周術期看護　メディカ出版 ・中島恵美子他　編：ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑧　緩和ケア　メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価（記述試験）：100％

授業進度計画(シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人看護方法論Ⅲ (脳・代謝)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	橋本 照美 他(非常勤) 実務経験有

[授業の目的・ねらい]
在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める継続看護のあり方を学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]
1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。
3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。

【実務経験】橋本照美:看護師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

1	脳神経に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 【担当:橋本】 身体的・心理的・社会的特徴	・救急救命 ・意識障害、運動麻痺
2		2)主要症状に対する看護	・ボディーイメージの変化
3		3)疾患をもつ患者の看護	・排泄障害
4		①急性期の患者の看護 ②回復期の患者の看護 ③慢性期・終末期の患者の看護	・高次機能障害 ・リハビリテーション、社会復帰 ・機能障害と社会への適応困難
5		4)検査、治療、処置をうける患者の看護	・継続看護、社会資源の活用
6		検査、治療、処置の目的と方法及び看護	・薬物療法、輸液療法
7	内分泌系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴	内分泌機能の観察とアセスメント ・身体、精神、血液所見、ホルモン定量
8		2)主要症状に対する看護	代謝率の正常性
9		3)疾患をもつ患者の看護	・日常生活への影響
10		4)検査、治療、処置をうける患者の看護	甲状腺切除時の生活指導
11		検査、治療・処置の目的と方法及び看護	脳下垂体切除術時の生活指導 ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導
12	健康の危機的状態にある患者の看護 (外部講師)	【認定看護師:12～15回] 1)救急看護認定看護師による講義	救急看護認定看護師の役割・活動
13		①生命の危機的状態に状態にある患者と家族への援助	生命の危機的状態と看護 救急・急性期看護、家族支援
14	糖尿病に罹患している患者の看護 (外部講師)	1)糖尿病認定看護師による講義	糖尿病認定看護師の役割・活動
15		①糖尿病に罹患している患者と家族への援助	糖尿病患者の理解 健康管理、生活管理 家族への支援
	試験	上記終了後 期末試験	

[使用テキスト]
・田村 綾子 編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護④ 疾病と治療 メディカ出版
・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版
・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ
成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版
[参考図書]
・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ
人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
1)最終試験評価:100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人看護方法論Ⅳ (消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)・実習
	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	吉田展子/森直美 実務経験有

[授業の目的・ねらい]
患者の身体に生じている現象、消化機能障害、生殖器機能障害を理解し、療養生活上の世話と終末期のQOLを高める援助方法を学ぶ。
手術に伴う基本的な生活の変化と看護について、消化器（胃がん）の手術をうける患者の事例を用いて看護過程を展開する。

[科目修了時の達成課題（行動目標）]
1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。
3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。
4.周手術期の看護を説明できる。
5.生命危機状態の患者の観察と看護を説明できる。

【実務経験】吉田展子、森直美：看護師5年以上の実務経験。
臨床での看護事例を用いて、わかりやすい授業を工夫する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

1	消化器疾患を学ぶ	1.消化器の構造と機能　【1～8回：森】	消化機能の構造と機能の知識の確認
	ための基礎知識	2.消化器の異常でみられる症候と看護	消化器疾患に伴う症状の観察点と看護
2	〃	3.消化器の検査と看護	生検　・造影検査　・内視鏡検査
		4.消化器疾患の主な治療・処置と看護	開腹術　・ドレナージ　・食事療法
3	消化機能に障害のある患者の看護	5.口腔・歯科・頭頚部の疾患のある患者の看護	舌癌・咽頭癌・喉頭癌の患者の看護
		6.食道の疾患のある患者の看護のある患者の看	食道癌・食道静脈瘤・の患者の看護
4	〃	7.胃・十二指腸疾患のある患者の看護	胃・十二指腸潰瘍・胃癌の患者の看護
		8.小腸・大腸・肛門疾患のある患者の看護	潰瘍性大腸炎・大腸癌・腸管機能障害
5	〃	9.肝臓の疾患のある患者の看護	肝炎・肝硬変・肝臓癌の患者の看護
		10. 胆道系の疾患のある患者の看護	胆石症・胆嚢癌の患者の看護
6	〃	11.膵臓の疾患のある患者の看護	膵炎・膵臓癌の患者の看護
		12.腹膜・腹壁・横隔膜の疾患のある患者の看護	腹膜炎・腹部外傷・急性腹症の患者の看護
7	〃	消化機能に障害のある患者の看護まとめ	★理解度確認テスト
8	乳腺の疾患	乳房切除をうける患者の看護	
	生殖器系に障害のある患者の看護	性ホルモン障害の治療と看護 性・生殖機能障害の検査・治療と看護 前立腺摘出後の患者の看護	・ホルモン療法　・放射線療法 ・化学療法
9	周手術期の看護過程	周手術期の看護と看護過程　【9～15回：吉田】 胃全摘出術を受ける患者の看護	
～	紙上事例を用いた看護過程の実際	演習：個人ワークならびにグループワークにて 紙上事例を用いて看護過程を展開する	・紙上事例を用いてグループで討議する
	グループ発表	グループ発表および意見交換	紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・看護計画立案について学びを共有するとともに疑問を解決する
15	まとめ	学習内容の確認	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
林正　健二　編：ナーシンググラフィカ　健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 三原　弘　他編：ナーシンググラフィカEX疾患と看護③ 消化器 苛原　稔　他編：ナーシンググラフィカEX疾患と看護⑨ 女性生殖器	1）最終試験評価：100％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科 / 学　年	年　度 / 時　期	授　業　形　態
看護演習Ⅳ （成人・老年Ⅰ：技術・リフレクション）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授　業　担　当　者
8回	1単位（15 時間）	必須	吉田　展子（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］

看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここでは成人・老年領域において基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施・評価できることをねらいとする。またリフレクション（Refrection）は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。

そこで、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］

1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。
2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。
3. 自己の看護観を言語化できる。

【実務経験】吉田展子：看護師として5年以上の実務経験
学生の臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】

リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的について再学習する。また成人・老年看護学Ⅰ実習後のリフレクションについては、必要に応じて中範囲理論や先行研究を活用して意味づけできるよう学習する。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	成人・老年看護学領域技術演習オリエンテーション	1）科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示 2）模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	
2	成人・老年看護学領域技術演習	3）援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化 4）計画に基づいた援助の実施と評価	・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する
3	〃		
4	〃	実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。
5	成人・老年看護学実習Ⅰ振り返り演習	4）深めたい内容の明確化	・グループ内でディスカッションして学び共有する
6	〃	5）演習　グループワーク・個人ワーク	
7	〃	6）成人・老年看護学実習Ⅰ振り返り発表会	
8	〃	〃	・看護観レポート作成

［使用テキスト］

・志自岐康子他　編：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学④　基礎看護技術　メディカ出版
・藤野彰子：看護技術ベーシックス，医学芸術社
・松尾ミヨ子他　編：ナーシング・グラフィカ
基礎看護学②　ヘルスアセスメント　メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1）成人・老年看護学Ⅰ実習前技術テスト評価50%、技術テストに合格した者が実習に参加できる
2）成人・老年看護学Ⅰ実習の振り返り発表会における取り組み、発表の評価50%
3）技術テストと成人・老年看護学Ⅰ実習リフレクション評価との合算にて100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
老年看護方法論Ⅰ （運動・腎・感覚器）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・　演習　・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（　15時間）	必須	桑原　真弓（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］

在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高められるような継続看護を学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。
3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。

【実務経験】桑原真弓：看護師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践経験や老年看護学概論での知識を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	感覚器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・感覚器の構造と機能 ・老年期の特徴
2	〃	検査、治療に対する看護 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・視力検査、眼圧検査、眼底検査 ・点眼法 ・聴力検査、平衡機能検査 ・嗅覚検査、味覚検査、感覚検査 ・各感覚器機能障害の原因と程度 ・心身・日常生活への援助
3	運動器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・運動器の構造と機能 ・老年期の特徴
4	〃	検査、治療に対する看護	・X線検査、MRI、骨密度検査
5	〃	身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・日常生活動作の観察 ・心身・日常生活の影響 ・ボディイメージ、社会への適応 ・障害の受容と生活改善の援助
6	腎・泌尿器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・腎・泌尿器の構造と機能 ・老年期の特徴
7	〃	検査、治療に対する看護	・尿検査、腎機能検査、画像検査、生検
8	〃	身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 ・尿・排泄障害の程度と原因 ・透析療法 ・心身・日常生活への影響とコントロール ・ボディイメージ、社会への適応 ・障害の受容と生活改善の援助
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
石川ふみよ他　編：ナーシング・グラフィカ 運動機能障害　　メディカ出版 ・田村綾子他　編：ナーシング・グラフィカ 脳・神経機能障害/感覚機能障害　　メディカ出版 ・林正健二他　編：ナーシング・グラフィカ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害　メディカ出版	1)科目終了時の最終試験評価（記述試験）：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
小児看護方法論Ⅰ （発達段階別）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・（演習）・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（　30 時間）	必須	塩山　秀子（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
子どもの成長発達の特徴や生活に応じた、子どもと家族への支援、疾患に対する子どもの理解と説明やプレパレーション、診療・入院等が子どもと家族に与える影響、多様な状況にある子どもと家族への支援などを学ぶ。

［科目終了時の達成課題（行動目標）］
1.成長・発達・発育の概念と定義を説明できる。
2.成長発達の一般的原則や影響する要因について説明できる。
3.小児各期の子どもの身体的成長・機能的発達・心理社会的発達について説明できる。
4.小児各期の子どものセルフケアの発達と看護についてアセスメントできる。
5.子どもを育む家族を支援する看護援助についてアセスメントすることができる。

【実務経験】塩山秀子：看護師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫をする。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	小児の成長・発達	1）小児看護と倫理的配慮	
2	〃	2)成長・発達の一般的原則と影響する要因	
3	〃	3)乳児期の形態的成長と機能的発達	
4	〃	4)精神運動機能の発達	
5	小児の発達段階に応じた看護	1)乳児期の生活と援助	
6	〃	2)幼児期の小児の生活と援助①	
7	〃	幼児期の小児の生活と援助②	
8	〃	3)学童期の小児の生活と援助	
9	〃	4)思春期の小児の生活と援助	
10	小児看護の技術	1)医療現場でのコミュニケーション技術	
11	〃	2）診療に伴う援助技術	・吸入と与薬 ・輸液の管理：動画
12	〃	3)子どものプレパレーション①	【グループワーク】 ・事例別にプレパレーションを考え、ツールを作成し、発表する。
13	〃	プレパレーションツールの作成②	
14	〃	プレパレーション発表③	
15	〃	4）まとめと国試対策	
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・中村綾美　編：ナーシング・グラフィカ
小児看護学①小児の発達と看護　メディカ出版
・中村綾美　編：ナーシング・グラフィカ
小児看護学②小児看護技術　メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
科目終了時の最終試験の評価：80％
プレパレーションの実施　　：20％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
小児看護方法論Ⅱ （症状別看護）	看護学科/2年次	令和5年度	（講義）・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単位 （ 30 時間）	必須	徳竹 律子 （実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
小児に特有な疾患の病態生理・症状・経過・検査・治療・予後を理解し、経過に応じた生活行動の援助や症状緩和をめざした適切な看護および継続看護のあり方を学ぶ。

［科 目 終 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1.小児に多く見られる主な症状の特徴と観察の要点、基本的看護を説明できる。
2.小児に特有な疾患の病態生理、症状と治療について説明でき、適切な看護について記述できる。
3.疾病を持ちながら成長発達を続ける小児への支援と看護について、病院・外来・社会をとおした、継続看護を記述できる。

【実務経験】徳竹律子：看護師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践経験を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児にみられる主な症状と看護	1)呼吸困難のある児の看護	主な症状を表す疾患を事例に学習する
		2)チアノーゼのある児の看護	・麻疹の症状と看護
2	〃	3)発熱のある児の看護	・急性胃腸炎の症状と看護
		4)嘔吐・下痢のある児の看護	・気管支喘息の症状と看護
3	〃	5)脱水症状のある児の看護	・ファロー四徴症の症状と看護
		6)浮腫のある児の看護	・ネフローゼ症候群の症状と看護
4	〃	7)けいれん・意識障害のある児の看護	・熱性けいれんの看護
		8)発熱のある児の看護	・川崎病の看護、与薬の技術援助
5	〃	9)発疹のある児の看護	・肥厚性幽門狭窄症の看護
6	健康障害の経過の特徴と看護	1)急性的経過をたどる健康問題・障害と看護	・フィンクの危機モデルの活用 ・外来における家族と看護
7	〃	〃	・ノーマライゼーションを支援する看護 ・手術を受ける子どものプレパレーション
8	〃	2)慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護	
9		3)周手術期の健康障害の主な症状と看護	
10	〃	4)ターミナル期の健康障害の主な症状と看護	・子どもを亡くした両親へのグリーフケア
11	健康障害を持つ小児の生活と看護	1)治療処置・検査を受ける小児と家族	・用語の理解：プレパレーション、ディストラクション
12		〃	・腰椎穿刺、骨髄穿刺、尿採取、便採取 輸液管理
13	〃	2)感染防止の必要がある小児と家族	・陰圧室
14		3)病気とともに生活している小児と家族(在宅療養)	
15	小児と家族に起こりやすい状況と看護	1)被虐待が疑われる小児と家族	★理解度確認小テスト（1～15回のうち3回）
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・奈良間美保他：系統看護学講座専門 小児看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院 ・中野綾美他：ナーシング・グラフィカ①小児の発達と看護、メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価：100％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
母性看護学概論	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	高橋　美佐子(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

本科目は母性看護学を学び始めるための出発点として、現代社会に生きる女性や家族がおかれている状況下でのセクシュアリティ，リプロダクティブヘルス／ライツの側面から女性のライフサイクル、母性の健康課題を概観し、看護者の役割について主体的に学ぶことを目的としている。また、授業方法として「グループ学習」、「グループ討議」も展開するので、事前学習をして興味・関心を持って主体的に学ぶことを期待する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 人間にとっての性・セクシュアリティの概念，および人権としてのリプロダクティブヘルスについて説明できる。
2. 母性・父性観の変遷から親役割について理解し，役割移行期における看護の必要性を説明できる。
3. わが国および海外の母性看護の歩みを理解し，時代に求められる母性看護のあり方を述べることができる。
4. 現代社会における女性を取り巻く環境と女性の健康とのかかわり，および対処方法を説明できる。
5. 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的特徴，および起こりやすい健康障害を説明できる。

【実務経験】高橋美佐子：助産師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	ガイダンス	母性看護学の学習内容と進め方	
	母性看護の主要な概念	母性とは	現代女性のライフサイクル
		母子関係と家族発達	
		リプロダクティブヘルス/ライツ	
2	母性看護における倫理・	母子保健統計	合計特殊出生率
3	法律施策	母性看護における法律	母子保健法、労働基準法
		健やか親子21	戸籍法、母体保護法
4		★知識確認テスト	
5	性と生殖	セクシュアリティ	
6		女性の生殖器	
7		月経周期	GnRH、LH，FSH エストロゲン、プロゲステロン HCG
8	思春期・成熟期女性の	思春期女性の特徴、健康と看護	月経困難症、マンスリービクス
9	健康と看護	成熟期女性の特徴、健康と看護	子宮筋腫、子宮内膜症
10		★知識確認テスト	
11	妊孕性に関わる健康問題と看護	性感染症	
		ドメスティック・バイオレンスと性暴力	
12	更年期・老年期女性の健康と看護	更年期女性の特徴　健康問題と看護	更年期障害、 下部尿路機能障害 骨粗鬆症 脂質異常症 動脈硬化 更年期うつ
13		老年期女性の特徴　健康問題と看護	骨盤臓器脱 萎縮性膣炎
14	特殊なニーズをもつ妊産婦と家族の支援		人工妊娠中絶、未婚女性の妊娠 外国人妊産婦
15	出生前診断・不妊症の看護	【15回目：不妊症看護認定看護師】 出生前診断、不妊症の看護について	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・横尾京子他　編：ナーシング・グラフィカ 母性看護①母性看護実践の基本　メディカ出版 [参考図書]適宜提示する	1)最終試験評価：100％

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
母性看護方法論Ⅰ (妊娠・分娩・新生児)	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間)	必須	高橋美佐子(非常勤) 実務経験有

[授業の目的・ねらい]

本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、正常な経過をたどる妊・産・褥婦の心身の変化を理解し基礎的看護実践能力を習得する。授業方法として演習を取り入れるので、臨場感をもって真摯に学ぶことを期待する。なお健康障害を持つ妊・産・褥婦の看護および看護過程の展開については「母性看護方法論Ⅱ」で学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1.妊娠期・分娩期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。
2.妊娠期・分娩期にある女性をゴードン適応看護モデルにより1次アセスメントができる。
3.妊娠期・分娩期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。

【実務経験】高橋美佐子：助産師として5年以上の実務経験。
臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	母性の発揮を促す看護 妊娠期における看護	1)遺伝相談,不妊治療 2)妊婦と胎児のアセスメント	不妊の定義 レオポルド触診法
2	〃	3)胎児発育の評価 4)妊婦計測 5)胎児心拍数	ネーゲレの概算法 子宮底長,腹囲測定 胎児心拍図
3	〃	6)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 7)妊婦健康診査	
4	〃	8)妊娠中の栄養管理	体重増加
5	妊婦と家族の看護	1)妊娠中の衣生活 2)妊婦の勤労	妊娠高血圧症候群の予防 腹帯
6	〃	3)入院のための準備 4)産痛緩和法	バースプラン 弛緩法,呼吸法,補助動作
7	分娩期における看護	1)分娩進行から入院まで 2)分娩第1期の心理	フリードマン曲線 リード理論
8	〃	3)基本的ニードのアセスメント	LDRシステム
9	〃	4)産婦と家族の看護 5)安全・安楽な分娩	
10	〃	6)出産体験が肯定的になるための看護	出産体験の振り返り
11	分娩各期の看護	1)自然かつ快適な分娩 2)基本的ニードに関する看護	フリースタイル出産 水分、栄養,排泄,怒責感
12	〃	3)分娩第1～4期の看護	胎盤娩出,異常出血 母子相互作用
13	新生児期における看護	1)新生児の健康状態のアセスメント 2)全身の観察	
14	〃	3)新生児期に実施される検査 4)ビタミンKの投与 5)医療事故・医療安全	母乳栄養成功の10カ条
15	分娩経過のアセスメントと看護	1)妊娠中期の健診とスクリーニング 2)分娩監視装置と胎児健康状態の評価 3)破水の診断 4)分娩の介助　【DVD視聴】	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・横尾　京子他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学①　母性看護実践の基本　母性看護学②　母性看護技術　メディカ出版.	1)最終試験評価：100% 2)授業参加状況(遅刻・早退を含む)

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
精神看護学概論	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	藤野裕介(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]
心の構造や働き、心の発達・健康及び心に影響をもたらす環境的要因について学習するとともに、看護師自身の自己活用が効果的に行われるために体験学習を通して自分自身への気づきを得る。また、精神看護の意義、目的、役割機能について精神に病を持つ人やその家族のみならず、全てのライフサイクルにある人を対象として理解し援助するために必要な基礎的知識を学習する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]
1.全てのライフサイクルにある対象の健康問題をメンタルヘルスの視点で考えることができる。
2.対象の発達課題及び危機とその援助について理解できる。

【実務経験】藤野裕介:看護師として5年以上の実務経験。
病院での看護実践経経験を教材として、学生が主体的に学修に取り組めるよう授業を工夫する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	精神看護学で伝えたいこと1	1)精神看護学とは 2)自己を知る	・自分自身の精神障害に対するありのままの気持ちを知る
2	精神看護学で伝えたいこと2	1)精神保健医療福祉の歴史と看護	・日本の精神科医療の歴史と変遷から精神科医療、地域精神保健福祉活動の特徴と課題を学ぶ
3	精神の健康と障害	1)地域精神保健福祉活動	
4	人間の心のしくみと人格の発達 1	1)心の発達とは	・自我の構造 ・心の防衛機制
5	人間の心のしくみと人格の発達 2	1)発達理論	・人間の成長と発達 ・発達理論(フロイト、エリクソン他)
6	ストレスと対処行動		・ストレッサーとストレス反応 ・ストレス対処行動(コーピング)
7	危機状況と心の働き	1)危機とは 2)危機モデル・危機介入	・成長発達過程における危機、状況の変化における危機を学ぶ
8	ライフサイクルと精神の健康(危機と危機介入)	1)乳児期	・サポートシステムなどの考え方に基づいて、危機の状況を把握する方法について理解を深める
9	〃	2)幼児期	・ライフサイクルと精神の健康についての危機とその援助を学ぶ
10	〃	3)児童期	
11	〃	4)思春期	
12	〃	5)成人期	
13	〃	6)老年期	
14	家族を支援する		・家族のメンタルヘルス ・精神障害者を抱える家族への援助
15	看護師の精神の健康	1)リエゾン精神看護、コンサルテーション	・看護師のストレス ・ストレスマネジメント
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・出口　禎子　編:ナーシンググラフィカ　精神看護学①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と看護の基本	1)最終試験評価 :100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
救急蘇生法 I	看護学科/2年次	令和5年度	(講義)・(演習)・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1 単位 （ 15 時間）	必須	中西　文香/ 髙橋　加代他(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]
万が一の事故などによるけがや発病のため、生命の危険が伴う場合の手当てなどについて、正しい知識を学び技術を実践できることは将来の医療者を目指すものとして大切なことである. そのために今までの看護基礎教育で学んだ構造学・機能学・看護技術などをもとに学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]
1.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい知識を習得することが出来る
2.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい技術を習得することが出来る

【実務経験】高橋、中西他：看護師として5年以上の実務経験。
これまでの看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い知識・技術を修得。

【準備学習】
授業内容の復習ならびにテキストによる予習を行う。

[授 業 の 内 容]

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	生命に危険が及ぶ状況を理解できる	1)本授業のねらいと学習内容	救命率の向上に必要なこと、心停止の予防、心停止の早期認識、早期救命処置の開始
	〃	1)心停止の早期認識	
		2)早期救命処置の開始	救助者自身の安全の確保、状況の観察
2	一次救命処置の実際	1)心肺蘇生法、AED	・心臓発作、脳卒中
		2)AEDの使用	・気道異物、誤飲
3	〃	3)医療機関へ搬送	
3	応急手当	1)外傷の手当 ・止血法、包帯法	・多量出血、咬創、熱傷
4	〃	2)外傷外の手当て ・ショック体位、固定法など	・骨折、脱臼、肉離れ、アキレス腱断裂 ・熱中症、中毒、けいれん、腹痛
5	子どもの応急手当	1)子どもに起こりやすい事故	家の中、周囲の環境整備
6	〃	2)子どもの気道異物の応急手当て ・背部叩打法、ハイムリック法	・気道異物、誤飲
7	〃	3)子どもの水の事故と応急手当	・溺水
	医療機関へ引き継ぎ	1)連絡と搬送	
8	まとめ	1)上記内容の復習と演習	
	試験	赤十字救急基礎・救急員養成講習会講義時の試験を受講する	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
1)授業時に提示します	赤十字救急法基礎・救急員養成講習会講義を受け演習に参加しているものが試験に参加できる 赤十字救急法基礎・救急員養成講習会時の実技試験、筆記試験：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
基礎看護学Ⅱ実習	看護学科/2年次	令和5年度	講義　・　演習　・　(実習)
授業時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位（　90 時間）	必須	南原　由理子／吉田　展子他 (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］
看護の対象である人間を生活者として全人的、個別的に捉え、疾患や障害、治療による生活への影響を看護上の問題としてとらえる視点を養う。健康回復のための個別性に応じた日常生活援助方法を看護過程の思考に基づいて立案、実践、評価できることをねらいとする。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］
1. 対象のニーズを把握し看護過程の展開ができる。
2. 対象に応じた介入方法を選定し、日常生活援助が実施できる。
3. 基本的看護技術(標準予防策、ボディメカニクス、コミュニケーション、フィジカルアセスメント)を実施できる。
4. 看護学生として対象を尊重する態度がとれる。

【実務経験】南原・吉田他：看護師として5年以上の実務経験
これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

【準備学習】
実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む

［授業の内容］
〈実習展開〉 詳細は、「実習の手引き」を参照

1.各グループごとに配置された実習病棟で臨床指導者、担当スタッフ、教員の指導のもとに看護ケアを実施する。

2.一名の患者を受け持ち、日常生活援助を中心とした看護過程を展開する。データベースをもとに情報収集から看護計画を立案し、それに基づいてケアを実施、評価を行う。

3.その他、基礎看護技術チェック項目等をもとに計画した技術の実践、検査等の見学実習を行う。

［参考資料］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術　メディカ出版 ・竹尾恵子：看護技術プラクティス　改訂3版、学研 ・日本看護診断学会監訳：NANDA-I看護診断 定義と分類、医学書院	1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する 方法：実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
成人・老年看護学Ⅰ実習	看護学科/2年次	令和5年度	講義　・　演習　・　(実習)
授業の時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位（90時間）	必須	吉田　展子　他(実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

成人・老年看護学１実習では、成人期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、看護支援ができる。チームの一員として基礎的知識・技術・態度を養う。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］

1. 成人期にある対象の発達課題・健康障害を踏まえた看護過程を展開できる。
2. 成人期にある対象とその家族の特性が理解できる。
3. 対象を生活者として捉え、病院から地域への継続について考えることができる。
4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。

【実務経験】吉田展子他：看護師として5年以上の実務経験
これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

【準備学習】

実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む

内容と計画

実習病院において、検査・治療をうける成人患者を受け持ち、以下の目標にそって、3週間の実習を行なう。
その間、受け持ち患者の健康レベルに応じて実習を行なう。
（詳細については、実習手引き参照）

1.臨床現場において、成人期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、基礎的能力を身につける。
2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。
3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・疾病治療学Ⅰ～Ⅳ、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳ、で使用したテキスト ・臨床外科看護総論・各論のテキスト ・日本看護診断学会監訳：NANDA-I看護診断 ・竹尾恵子：看護技術プラクティス　改訂3版、学研	実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 （詳細については、評価表参照）

令和5年度

授業進度計画

令和5年4月1日発行

学校法人穴吹学園　穴吹医療大学校